

保護者等向け	放課後等デイサービス評価表 集計結果
--------	--------------------

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10	5	0	
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	10	5	0	・ふだん迎えに行かないので分からない。 ・誰がどんな資格や経験を持たれているのかなどわからず、対応にあたってくれた方もわからないので。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	8	4	3	・覚えていない
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	14	0	1	
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	13	1	1	
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	7	6	・分からない
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	14	1	0	
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	14	1	0	
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13	2	0	
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	13	2	0	
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	12	3	0	
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	14	1	0	
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	14	1	0	

	14	個人情報に十分注意しているか	14	1	0	
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	11	3	1	
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	10	3	2	
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	11	4	0	
	18	事業所の支援に満足しているか	13	2	0	

\*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

・調査期間：2023年2月20日～3月10日

・配布数：21人

・回収数：15人（回収率68.2%）

・自己評価結果公表URL：<https://alternaways.com/about.html>（「オルタナプレイス紹介」ページ下部をご覧ください。）

## 事業者向け

## 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	3	1	0	
	2	職員の配置数は適切であるか	3	1	0	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	0	2	2	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	4	0	0	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	4	0	0	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	4	0	0	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	0	1	3	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	4	0	0	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4	0	0	
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4	0	0	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	0	0	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	4	0	0	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	2	2	0	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	4	0	0	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4	0	0	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	3	1	0	・送迎時間の都合上、十分な時間がとれないことがある。その場合、翌日に実施。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4	0	0	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	4	0	0	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	3	1	0	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	4	0	0	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	3	1	0	・主に保護者を通して連絡し、必要時には直接連絡
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	1	2	1	・該当者なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	3	1	0	・一部実績あり ・必要に応じて依頼している
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	1	3	0	・該当者なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	0	0	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	0	1	3	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	0	1	3	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4	0	0	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	2	2	0	・リファーしている
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	4	0	0	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	4	0	0	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	4	0	0	

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	4	0	0	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4	0	0	
	35	個人情報に十分注意しているか	4	0	0	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	4	0	0	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	0	3	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	2	2	0	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4	0	0	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4	0	0	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	4	0	0	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	3	1	0	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4	0	0	

## 2022年度 放課後等デイサービス自己評価票アンケート結果に基づく自己評価

### 1. 概要

2023年2月20日から3月10日にかけて、保護者および事業所職員に対して標記のアンケートを実施しました。回収は返信用封筒を用いて無記名での回答を求めました。その結果、保護者向けアンケートでは利用者21名中15名からの回答があり、複数の保護者から「どちらともいえない」または「いいえ」との回答があった12項目の内、9項目を改善が必要な項目と判断しました。また事業者向けアンケートは職員全員（常勤4名）に実施し、集計結果に基づき検討した結果、保護者アンケートの結果に即して改善を行うこととなりました。

これらの結果を踏まえ、当事業所における課題および改善目標をとりまとめましたので、その結果を公表します。

### 2. 保護者向けアンケート

#### (1) 改善の必要がある項目に関する現状および改善目標（丸数字は質問番号）

※項目末尾の括弧内の数字は、順番に「はい」「どちらともいえない」「いいえ」の回答数。

#### ② 職員の配置数および専門性（10,5,0）

介助を必要とする利用者が多い事業所と比較すると配置数は少ないが、人員配置の基準は満たしている。専門性については、年度初めに職員の資格・経歴等を周知するとともに、研修や自己研鑽を通して専門性の向上に努める。

#### ⑤ 活動プログラムが固定しない工夫（13,1,1）

放課後利用時には日に2種類のグループ活動に加え、週間テーマとしての活動や外部講師によるヨガ教室などを実施している。ただし今回は「いいえ」との評価があったため、利用者・保護者の意見を聞いて新しいプログラムを取り入れて行く。

#### ⑨ 保護者に対する面談・育児の助言等の支援（13,2,0）

保護者に対する支援としては、個別支援計画見直し時の面談（約60～90分）に加えて、随時の面談や電話相談、保護者アプリを用いた相談支援を行っている。アンケートでの意見はなかったため具体的な改善案の提示は難しいが、今後も保護者からの要望や必要性のある際には、面談等の支援を行っていく。

#### ⑩ 保護者同士の連携の支援 (13,2,0)

今年度は従来から行っていた年1回の保護者会に加えて、初の試みとなる家族で参加が可能なレクリエーションを開催し、保護者同士の交流を計った。また3月からは、事業所内相談支援加算Ⅱとして年に4回、保護者のグループに対する支援を行い、保護者同士の交流・連携の機会を増やすことを心がける。

#### ⑪ 苦情対応の体制整備および周知 (12,3,0)

苦情対応の体制については契約時の重要事項説明書で示しているが、それに加えて、事業所外の相談窓口を含めて苦情対応の体制について年に1回周知する。また「どちらともいえない」との回答理由として、保護者・利用者からの苦情や要望への対応が不十分とみなされた可能性があることを真摯に受け止め、改めて誠実かつ迅速な対応をしていくことを心掛ける。

#### ⑫ 非常時のマニュアルの整備 (11,3,1)

質問で示されたマニュアルの中には明確に文書化されていないものもあるため、来年度中にとりまとめを行い、保護者に周知する。

#### ⑬ 非常災害の発生に備えた訓練 (10,3,2)

昨年の改善目標とした最低半年に1度の訓練は実施できなかった。来年度は、利用曜日を問わず利用者全員が訓練に参加できるように年間の訓練計画を作成し、着実に実施することで改善を図る。

#### ⑭ 子どもは通所を楽しみにしているか (11,4,0)

放課後等デイサービスは、子どもが楽しく過ごすことだけを目的とするものではないが、昨年度よりも「どちらともいえない」との回答比率が高くなっており、改善が必要な項目と考えられる。一人ひとりの興味関心に応じた意欲をもって取り組めるプログラムと、年齢や特性、好きな遊びが異なる利用者が一緒に楽しめるプログラムの両方を工夫していくことが必要である。

#### ⑮ 事業所の支援に満足しているか (13,2,0)

アンケートでの意見がないため具体的な改善案を検討することは難しいが、上記内容を個別に改善していくことによって、支援への満足度を高めることを目指す。

(2) 複数の保護者から「どちらともいえない」もしくは「いいえ」の回答があったが、  
改善目標を立てる必要がないと判断した項目およびその理由

① 活動スペースの十分な確保 (10,5,0)

通常の屋内活動には十分なスペースは確保しており、地域の公園等の施設も積極的に活用している。個別のニーズが分散した場合（ごっこ遊びをしたい、パソコンをやりたい、静かな場所で宿題をやりたい、1人で過ごしたい等）は全員が満足できる活動スペースを確保できないこともあるが、建物自体の広さや間取りの制約があるため、具体的な改善は難しい。

③ バリアフリー化の配慮 (8,4,3)

当事業所は、エレベーターがなく2階にトイレがある戸建て物件であり、身体機能に配慮したバリアフリー化は難しい。当事業所では主に対人コミュニケーション等の社会性の向上をねらいとした支援を行っており、トイレが2階にあることによる問題は生じていないため、現状のままで差し支えないと考える。

⑥ 児童館等との交流や、障害のない子どもと活動する機会 (2,7,6)

当事業所の利用者は全員が通常学級もしくは支援学級に在籍しており、日常の学校生活の中で、障害のない子どもと活動する機会はすでに確保されている。

### 3. 事業者向けアンケート

#### (1) 改善の必要がある項目

結果を共有し意見交換した結果、上記「2. 保護者向けアンケート(1)改善の必要がある項目に関する現状および改善内容」に関連する項目について、重点的に改善を図ることとなった。

以上